

ふたばっ子とともに

R4. 5. 20

令和4年度がスタートして、はや2か月が過ぎようとしています。

5月の終わりには、「ふたばっ子チャレンジタイム」を行います。今、どの学年、どのクラスの子供たちも、この行事に向けて一生懸命、準備や練習に取り組んでいます。「ふたばっ子チャレンジタイム」は、これまで行われてきた「運動会」としての良さや流れをくみながら、新しい時代を生きる子供たちに身につけさせたい力を育む活動の1つとして、企画・実践しているものです。

昨年度までの2年間は、各種行事の実施に当たっては、子供たちの安全を守るために、新型コロナ対策を行うことが最重要課題でした。そして、子供たちの学びや多様な経験を保障するために、まずは「開催すること」を目標として取り組みました。

今年度も、コロナ禍であることに変わりはありませんが、この2年間で対策の留意点が明確になり、感染状況が落ち着いたときには可能な活動の範囲を広げられるようになりました。今年度は、感染者の増大や拡大を注視することはもちろんですが、子供たちにとってより「学び」の多い「ふたばっ子チャレンジタイム」にしたいと考えています。

さて、4月の教育方針説明でもお伝えしました「校長通信」の第1号を、ようやく発行することができました。

双葉小の子供たちの日々の姿や教育活動を捉えて、

- ① 子供たちの成長やがんばりが感じられた瞬間
- ② 子供たちに学んでほしいこと（教職員の思いや願い）
- ③ 保護者や地域の皆様と協力していきたいこと

などを中心にお伝えしながら、この「校長通信」のページを進めていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

今回は、「挨拶」について、5月の朝会で子供たちに話した内容を中心にお伝えします。

「あいさつ」は・・・

5月10日の朝会で、子供たちに次のように話しました。

—前略—

さて、今日は、挨拶の話をしてします。

4月・・・先生は、毎朝、できるだけ皆さんが登校している時間に、通学路

を歩いてみました。

そのとき、私やスクールガードの保護者の方、旗振りをしてくださっている地域の方に、皆さんは、元気よく「おはようございます。」と挨拶をしていました。

そして、私は、学校に戻ってくるとそれぞれの教室を回りました。

はじめのうち、私の「おはようございます」の声に、一番大きく挨拶を返してくれたのは、5年生と2年生でした。5年生の声は、元気が湧き出てくる素晴らしい挨拶でした。

何日かすると、さすが6年生。心の伝わる思いのこもった挨拶の声が返ってくるようになりました。

3年生も4年生も、挨拶の声はどんどん大きくなってきています。入学したばかりの1年生も、しっかりと挨拶を返せる子が増えてきましたね。

わかば学級の子たちも挨拶の声が大きくなりました。特に、わかば1組の子たちは、朝の支度をしている途中でも、きちんと「おはようございます」が言えます。立派ですね。

帰りにも、校長室の前を通るみなさんが、元気よく「さようなら」と声を掛けていきます。

あいさつは、「おはよう」「さようなら」だけではありません。

いつ、どこで、どんな挨拶があるか考えて、ぜひいろいろな挨拶ができる人を目指してください。

入学式の時、1年生に「あいさつは、友達を作る『魔法の言葉』だよ」というお話をしました。

みなさんには、もう1つ。あいさつは、『相手の心の扉を開ける鍵』にもなることを知ってほしいと思います。その話は、また別の機会にしますね。

さあ、いろんな人の心の扉を開けて、あなたがともに頑張れる友達を、ともに歩める仲間を、どんどん増やしていきましょう。

この話の後、子供たちの挨拶の様子が、大きくレベルアップしたのを感じています。

○朝、通学路ですれ違う子供たちの「おはようございます。」の声が大きくなりました。

○朝、教室を回ると、挨拶のボリュームが増したのと同時に、ほとんどの子が顔を上げ私を見て返してくれるようになりました。

○校内ですれ違う子供たちの中に、「こんにちは。」と挨拶をする子が増えました。

○休み時間や給食の時に教室を覗きに行くと、「こんにちは。」と率先して挨拶の声を出してくれる子が増えました。

○下校時、職員室前を通るとき、入口に立ち止まって「先生方、さようなら。」と大きな声であいさつをしていく子が増えてきました。

○これも下校時。校長室東側の窓ガラス越しに、「校長先生、さようなら。」「さようなら。」と声を掛けてくれる子が、日に日に増えていきます。はじめは、低学年の子が中心でしたが、中学年、高学年と輪が広がり、今ではほとんどの子が挨拶をして通っていきます。

当然、各クラスで、担任の先生方が、実態に合わせて私の話を補足し、子供たちのやる気を引き出してくれたお陰なのですが、それでも「挨拶を頑張ろう」と行動に表す子供たちの素直な心と反応の良さを感じることができ、これから先、双葉小の子供たちと過ごしていくことが、また、子供たちの成長を見守っていけることが、とても楽しみになりました。

また、子供たちの「挨拶ができる」という姿の背景には、御家庭で挨拶が交わされていることや、地域の皆様の温かな見守りや声掛けがあることも、大切な要素であると思います。

これからも、子供たちが「友達を作る『魔法の言葉』」として、また「相手の心の扉を開く鍵」として、時と場に合わせた挨拶を身に付けていけるように励ましていきたいと思っています。

【タイトルに寄せて】

校長室より発信するたよりは「ふたばっ子とともに」です。

本校では、令和4年度のキーワードを「ともに」と押さえました。

「双葉小学校の子供たちを中心に、それを育て、見守る教職員、保護者や地域の皆様、活動を支えていただく方々…双葉小学校に関わる全ての人が、『ともに』新たな時代を築き、共に歩んでいきたい」

そんな願いを込めて、このタイトルを付けました。

よろしく申し上げます。